

監修：和田敏明
撮影：福田 稔
取材・文：編集部

支え合う ボランティア

最終回

日常生活自立支援事業 生活支援員

判断能力に自信がなくなってきたと感じたとき、頼りになる
「日常生活自立支援事業」をご存じですか？

◆定期的に訪問してサポート

認知症や精神疾患、障害者の方など、判断能力に不安を抱える方が安心して生活するために「日常生活自立支援事業」という制度があります。1999年にスタートしました。

支援事業は主に、預金の出し入れや福祉サービスの利用契約、通帳や印鑑などの預かりサービスなどを行います。家庭裁判所への申し立てなど、複雑な手続きが必要な「成年後見制度」を利用するほどではないけれど、生活に少し不安があるといった人にとっては、身近な事業でもあり、利用者は年々増えています。

この支援事業を希望する人はまず、社会福祉協議会に相談します。そこで「専門員」が困っていることや悩みなどを聞き取ります。専門員は本人の希望に基づいて支援計画を作り、契約をします。その後は、「生活支援員」が専門員の支援計画に従い、利用者の生活をサポートします。相談や支援計画の作成は無料ですが、サービスを利用する際には料金がかかります。

生活支援員は、利用者にとって、いちばん

身近な存在になります。定期的に訪問しながら、利用者の不安や悩みに耳を傾け、親身になってサポートします。

今回は東京都世田谷区で、生活支援員としてスタート時から活動している鈴木禮子すずき れいこさんに伺いました。

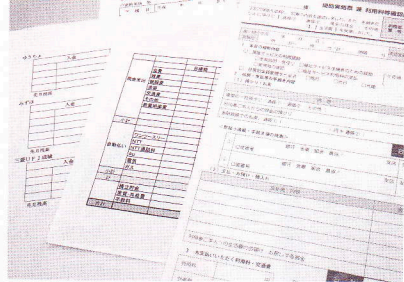
「民生委員の任期をちょうど終えたころ、生活支援員の住民公募の話を聞き、特定の人に寄り添う形のボランティアは私に向いているなと思い、始めました」

生活支援員になるには特に資格はいりません。ただし、東京都内で活動する場合は、東京都社会福祉協議会の研修を受けることが義務づけられています。活動中は、世田谷区社会福祉協議会で、研修と交流会が年に2回ずつ行われます。研修では、法律改正に伴う書類の書き方などの講義、交流会では、他の支援員との情報交換などを行います。利用者によってさまざまなケースがありますから、こ



生活支援員の鈴木禮子さん。

ういったサポートは生活支援員にとって心強いものです。



利用者を訪問した後は、報告書を作るのも大切な作業。鈴木さんオリジナルの金銭管理メモも活用して。

◆ 自立した生活とは何か

支援事業の利用者の多くは、一人暮らしの高齢者です。

「高齢者が、公共料金の支払いが滞っていることに気付かず、突然電気やガスが止められてしまったという話をよく聞きます。それから多いのが、郵便物をきちんと確認しないといった例です。高齢者の福祉サービスなど、さまざまな手続きや契約が書類を介して行われることが本場に多い。私たちはそういういった手続きもサポートするわけですが、社会のシステムを正しく活用するためにも、この支援事業を利用することは、自立した生活を送る手助けになると思うのです」

一人で生きること、果ては終末を迎えることについて、考えさせられることも多々あると鈴木さんは言います。もし認知症が進行してしまった場合は、成年後見制度を利用することになりますが、日常生活自立支援事業は、成年後見制度への移行も手伝います。

鈴木さんが生活支援員として

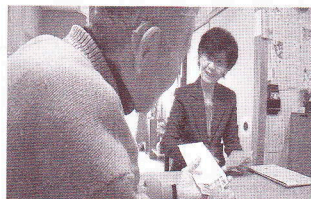
気をつけていることを伺いました。

「自分の意見を抑えることも、時には必要です。利用者

者が手続きなどを拒んだときも、なぜ嫌なのか、本当はどうしたのかを、時間をかけてじっくり話を聞き、その人にとっていちばんよい選択肢を見つけて導く。何でも言いなりではなく、かといって私たちの思いを押しつけるわけでもない。それが私たちの目指す方向です」

支援事業は、一人の人が積み上げてきた人生と向き合うことになります。

「人の人生に関わっていることへのおそれをもつことは、生活支援員にとって最も大切なことです。利用者との目線を合わせられる人、自分とは違う、ということを寛容に受け止められる人が、生活支援員に向いていると思います。これから需要も増えると思いますので、たくさんの方に、生活支援員に興味をもってもらえたらうれしいですね」



鈴木さんは、日常生活自立支援事業のPR活動として、世田谷区社会福祉協議会が作ったDVDにも出演している。

安心して生活を送るためにできること

高齢になると、これまで思いもしなかったような問題に戸惑うことがあります。毎日の生活の中で、さまざまな不安や疑問も多くあります。なかでも一人暮らしの場合は、その思いも強くなるでしょう。「日常生活自立支援事業」の利用者のうち約半数以上は、認知症の方です。それまで当たり前のようにできていたと思っていた、毎日の生活に必要な生活費の管理や、行政の手続きのことなど、思いがけずおろそかになり、安心して日常生活を送れなくなることもあります。支援事業を利用することで、一人で悩まずに生活できることは大きな心の支えにもなります。

元気なうちに、自分自身の今後の生活について、じっくり考える機会をもつことは大切なことです。お金の管理や、さまざまな福祉サービスのことなど、生活を支える大切なことがたくさんあります。その中でこの支援事業についても、選択肢の一つとして検討していただければと思います。



和田敏明

ルーテル学院大学
社会福祉学科 教授

(わだ・としあき)